

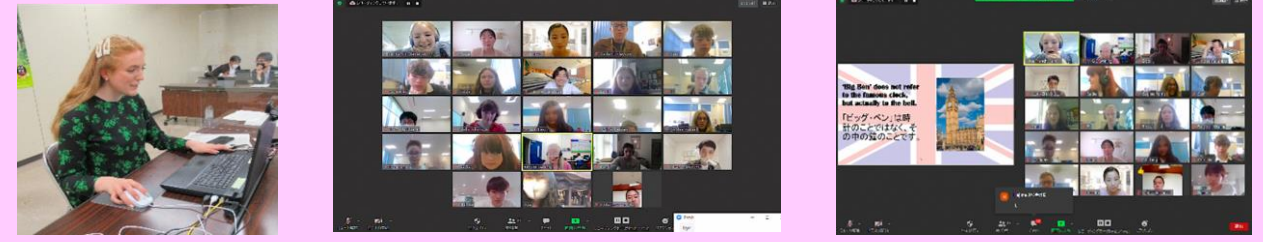
## I オンラインによる国際交流

### 取組みの方向性

- ・オンラインを積極的に活用した新たな交流の拡大
- ・ポストコロナにおけるリアル交流の活性化に向けた交流の種まき
- ・若者が主体となった国際交流促進による人材・地域のグローバル化

### ▼ 次代の主役を担う若者による交流

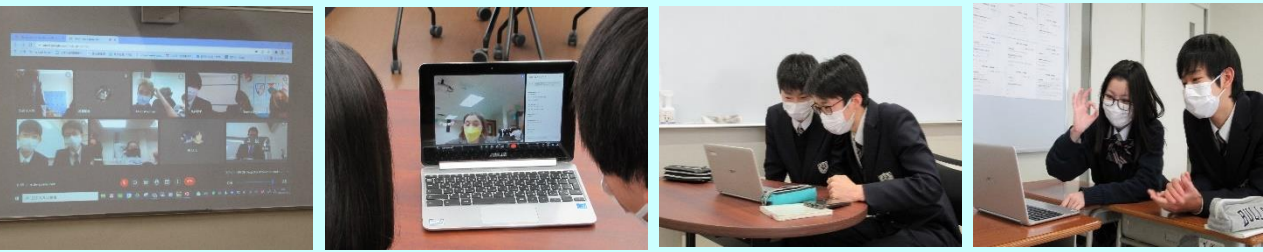
**イギリス**の中高生と山形大学学生のオンライン交流を、本県国際交流員のアリス・フレンチ氏(当時)主導で実施。交流を通して、相互理解を深め、お互いの国や国際交流への興味関心の喚起につながった。



**ブラジル・ペルー**の山形県人会の若者と東北公益文科大学の学生によるオンライン交流を実施。相手国の言語での自己紹介や、公益大生による移民の歴史のプレゼン、フリーディスカッションをしながら、相互理解を深めた。また、ブラジル・ペルーの若者と県内の若者とが、芋煮やブラジル・ペルーの郷土料理を食べたり、花笠踊りを踊ったりするオンライン体験イベントにより交流を深めた。



**アメリカ・コロラド州**にあるボルダー高校と山形城北高校によるオンライン交流を「山形県コロラド州姉妹県州35周年記念」として実施。高校生92名が参加し、グループに分かれ日本語・英語での自己紹介や意見交換を行い、交流を深めた。今後継続して、定期的実施する。



### ▼ 経済交流の発展を見据えたオンライン交流

**タイ王国**と本県の連携拡大に向け、ジョージ・ヤマガタ氏のコーディネートにより、山形県タイ友好協会(事務局: 荘内銀行)とともに開催。  
第1回: タイ国商務参事官事務所所長や、タイ大手のカンコン銀行東京事務所所長、本県のタイ進出企業、観光関係者、県内在住タイ人などをパネリストに、相互交流の発展について意見交換を行った。  
第2回: タイ国政府観光庁、タイの大手旅行業者、県内の観光事業者をパネリストに、山形県とタイの魅力、双方向の観光促進について語り合った。



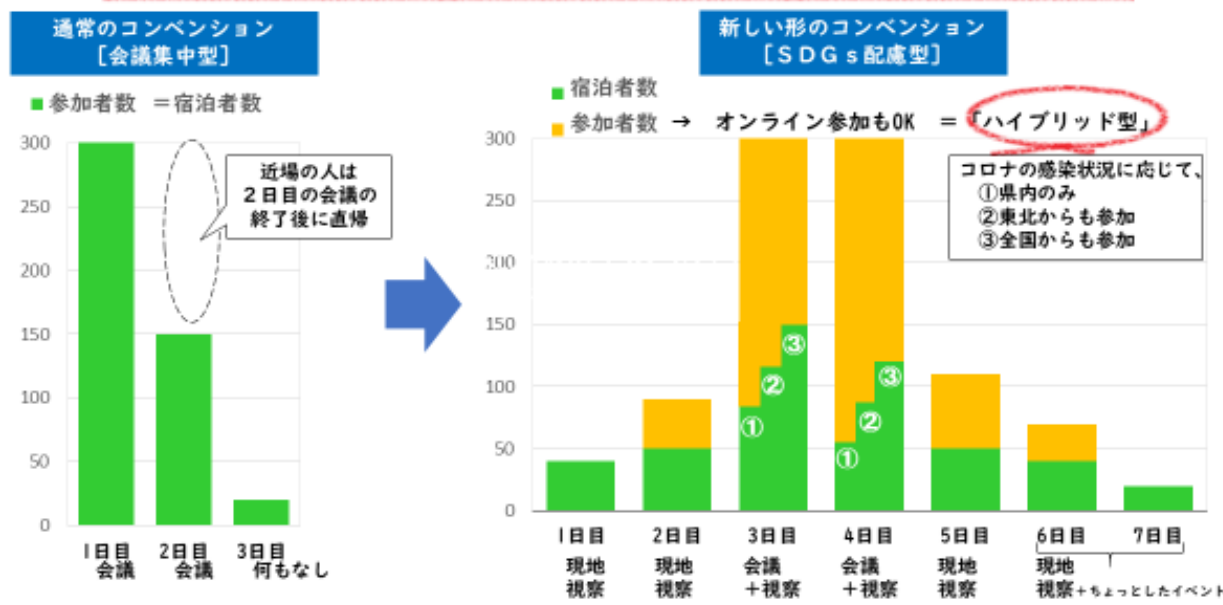
## II 新しい形のコンベンション

### 取組みの方向性

- ・期間の分散とハイブリッド開催の組み合わせにより、MICEの利点も活かされた「新しいコンベンション」の推進
  - ・感染リスクの抑止
  - ・中止等による地元経済への損失回避
  - ・環境への負荷の少ないSDGsに配慮した形態



### 通常のコンベンションと新しい形のコンベンションの比較



### 【具体的な事例】さけがわサーモン月間

主催: 鮭川村 共催: 山形県  
期間: 令和3年11月1日~30日 場所: 鮭川村内及びオンライン

11 November 2021						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
31	1 (1)	2	3	4	5 (2)	6 (1)
7	8 (1)	9 (鮭川小学校 総合学習)	10 (鮭川小学校 総合学習)	11 (Salmon Day Online vol.1)	12 (1)	13 (2)
14 (2)	15 (2)	16 (4)	17	18 (1)	19 (1)	20
21 (2)	22 (1)	23 (3)	24 (4)	25 (2)	26 (1)	27
28	29 (1)	30 (1)	1	2	3	4

※緑の数字は現地視察人数



- ▼オンラインイベント  
登録者60人  
参加者合計150人
- ▼現地視察  
22組(うち宿泊12組)  
48人  
※期間中に分散させて来訪対応
- ▼鮭×OO  
期間中、教育やオンラインツアーなど、様々なイベントを実施
- ▼SNS情報発信  
オンラインイベントに関する英語配信  
6,000アクセス

→地域資源の発掘・磨き上げ、発信、交流により持続可能な地域づくりにも貢献